

---

# 神の使い

零桜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神の使い

### 【Zコード】

N7494B

### 【作者名】

零桜

### 【あらすじ】

私は神の使いになつた。この才能で天下を取る！…そして大金持ちになり、この世に私の名を轟かせるのだ。

私達の頭上にはいつも、空が広がっている。そしてその向こうには宇宙がある。

皆が知っている常識。

でも、人は知らない。空にはもう一つ異次元が存在することを…。  
それが、神や天使たちが住む天国である。

私は神の使いただ。なんて言つても誰も信じてはくれないだろう。  
私は、音楽で成功を修めた。今まで音楽なんて全く興味が無かつた  
のに…。

高校2年のある日。私は突然作詞をしてある有名な賞を貰つた。  
それから、私の人生が変わつた。私は高校を中退し、作詞に専念し  
た。

そして今に至る。

それから私は、異次元が見えるようになつた。

・・・・・と私の身の上話はこのぐらいにしておこう。

天使達の話だ。

天使・・・つまりこの世にまだ存在していない者たちだが、あの異  
次元から私達のことを見ている。神の使いである私には彼らの声が  
聞こえる。

「あの人もうすぐこっちに来るね」

「うん。でもあっちの人はダメ。地獄に落ちる」

「私、あの人達の子供になる」「うん、いつてらっしゃい」

「あの人人が神様に認められた人??なんかパツとしないね。折角の  
才能なのに」

とまあこんな具合だ。

だから私は神の使いだ。こんな特技は誰も持っていない。

私は音楽の申し子だ。モーツアルトやベートーベンのような大音楽家となるのだ。

ジャンヌダルクのように神に認められたのだ。

私は歴史に名を残す。

素晴らしい。なんと素晴らしいこと！――

おつといけない、神や天使が見ている。こんなことで浮かれていては、いけない。

さあ、作詞をしなければ。そして私は名を残し、神になるのだ。んつ！？神になる。そんなこと初めて考えた。しかし良い響きだ。死んだら神になれるかもしない。なんせ私は神の使いなのだから――！――

「あーあ、悪魔の誘いに乗っちゃったよ。あの人」

「可哀想。もう駄目だね」

「バイバーイ」「さよなら、神の使いさん」

急に天使達の声が途絶えた。

何故だ。何故だ。なぜ！――

私はマンションの屋上へ行つた。天に近いところへ行きたかった。

『私は神の使いだ。申し子だ。天使達！なぜ話を止めた』

【それは、あなたが俺の声に耳を貸したから。神になりたいと思つたから】

振り向くと黒い物体が私を包んでいた。

――――――――

『先生、心臓停止が確認されました』

『・・・7日午前10時30分。御臨終です』

そして私は、真っ暗な暗闇に放り込まれた。  
何も無い、考えることもままならない、虚無の世界に。

(後書き)

いかがでしたか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7494b/>

---

神の使い

2011年1月16日03時27分発行